



日本南阿蘇村與台灣東港鎮簽署合作備忘錄



南阿蘇村と台湾の東港鎮が 国際交流促進覚書 (MOU) を交わしました



参列者右から東港鎮民代表会主席：洪慶田さん、屏東県副県長：吳麗雪さん、東港鎮長：徐志雄さん

10月26日から28日の期間で、吉良村長、桐原議長らが南阿蘇村を代表して台湾の屏東県東港鎮などを訪問し、東港鎮との間で国際交流促進覚書 (MOU) を締結しました。

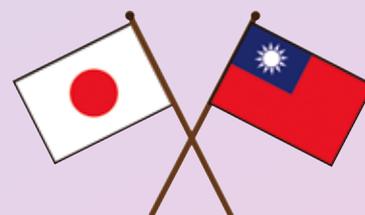
この覚書は、南阿蘇村と東港鎮が両者の地域振興や人材育成に向け、国際交流の促進に協力して取り組み、観光や教育などにおける相互交流の促進や農産物、海産物等の物流の促進について協力するために交わされたものです。今後は、具体的な交流を通して、友好都市協定の締結などが期待されます。

※国際交流促進覚書 (MOU) とは、当事者間の合意内容を書面化したもので、法的拘束力はなく、一般的に「姉妹都市協定」などの一歩手前の段階と認識されるもの。

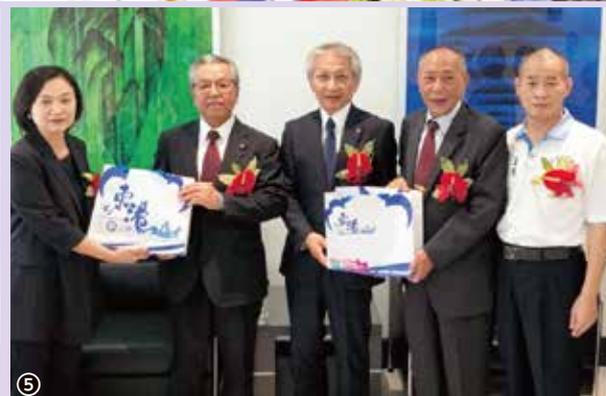


台湾は日本の西南西に位置し、日本最西端の与那国島からは約110km (南阿蘇村一宮崎市間) しか離れていない意外と身近な存在です。

今回覚書を交わした東港鎮 (鎮は日本の町村の意) は台湾南部の屏東県に属する面積は29.46km²、人口約4万7千人の自治体です。

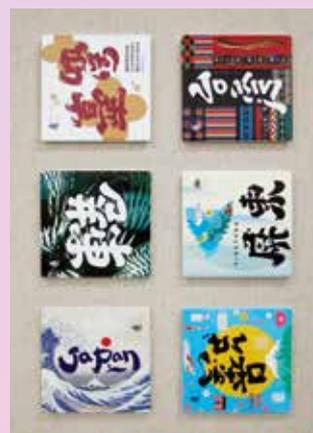


■交流の様子



①現地では多くの歓待を受けました ②村からの寄贈品の1つ、トートバッグを喜んで受け取っていただきました ③東港鎮から村への記念品を説明する徐鎮長 ④東港鎮公所(役場)前での徐鎮長との記念撮影 ⑤屏東県議会議員にも出迎えていただきました

■記念品の交換



①屏東県から村長・議長に対していただいた記念品。台湾に住んでいた先住民族が身に着けていた装飾品。②村で作成し、屏東県・東港鎮に贈ったトートバッグ。このマークは今後村と東港鎮との交流時に用いるロゴマークとなります。③村から屏東県・東港鎮に贈った記念品であるウサギの大皿(阿蘇久木野窯制作)。ウサギは多産なことから発展を象徴する縁起の良い動物。④東港鎮から村にいただいた記念品。向きを変えたら別の意味になる仕掛け絵になっています。

■台湾ってどんなところ？

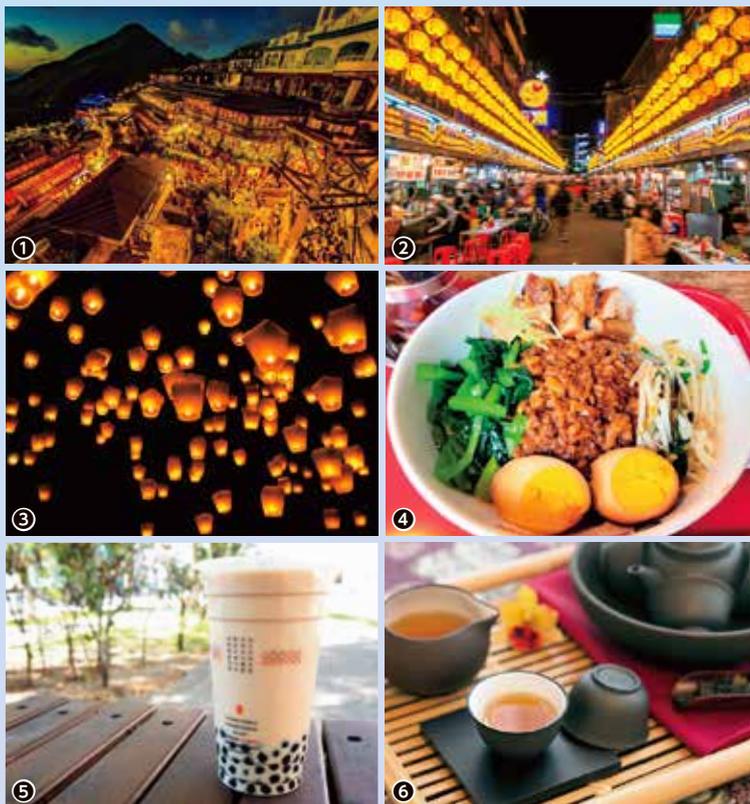
台湾は、台湾本島とその周辺諸島から構成されており、面積は約36,000km²で九州と同程度、人口は約2,334万人で九州と中国四国地方の人口と同程度です。

公用語は国語（台湾華語）ですが、中国語も通用しており、戦時中の日本統治時代の名残から特に高齢者層では日本語話者も存在します。

また、訪日外国人数では中国、韓国に続き第3位で、最も好きな国のランキングで日本が1位であるほか、日本へ親しみを感じる人の割合は77%であるほどの親日国でもあります（(公財) 日本台湾交流協会調査結果）。

経済面では、2022年の人口1人あたりの名目GDPでは日本とほぼ同程度の数字であり（IMFデータ）、その鍵となる産業が半導体などの電子工業で、菊陽町に進出予定の台湾新竹市を本社とする大手半導体メーカー「TSMC」の企業時価総額（企業価値を示す指標）は日本のトップ企業の2倍以上である大企業です。

その他、熊本空港からは台湾の高雄国際空港までの飛行機での直行便が出ており、国際線で熊本から最も訪れやすい場所の1つだと言えます。



① 新北市九份の夜景 ② 夜市の風景 ③ 台湾の夜を彩るランタンフェスティバル
④ 台湾定番料理のルーロー飯 ⑤ 日本でも定番になったタピオカドリンクは台湾発祥 ⑥ 極上のおもてなし台湾茶

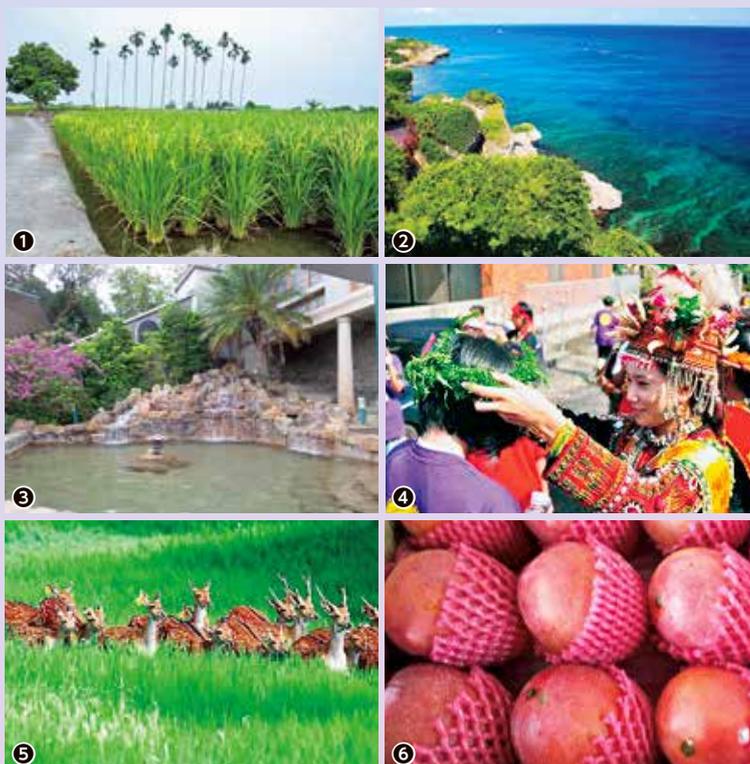
■屏東県ってどんなところ？

屏東県は、山と海に挟まれている台湾最南端の県です。三方が海に面し、熱帯地方とあって一年を通して春のように温暖な気候です。風光明媚で、ヤシの木が県の木となっているなど南国ムードにあふれている国内有数の観光地です。

海辺は、ダイビングでサンゴ礁を觀賞したり、砂浜の貝殻を拾ったり、貝殻でできた珍しい砂浜を探索したりと、レジャーや水遊びに最適の場所です。このほか、昭和天皇の皇弟である故高松宮殿下が新婚旅行で訪れたという台湾四大名湯の1つ「四重溪温泉」は、台湾一の泉質とも言われ、国内外から多くの観光客が訪れる人気のスポットです。

また、温暖な気候を活かした果樹の栽培が盛んで、パイナップルやバナナ、アップルマンゴーの一大産地となっているほか、近年ではチョコレートの原料となるカカオが栽培され、大変高品質であることから世界的に注目され始めています。甘いもの好きの人にはぜひ訪れていただきたい地域です。

※画像引用：ピンドン観光ネットワークHP



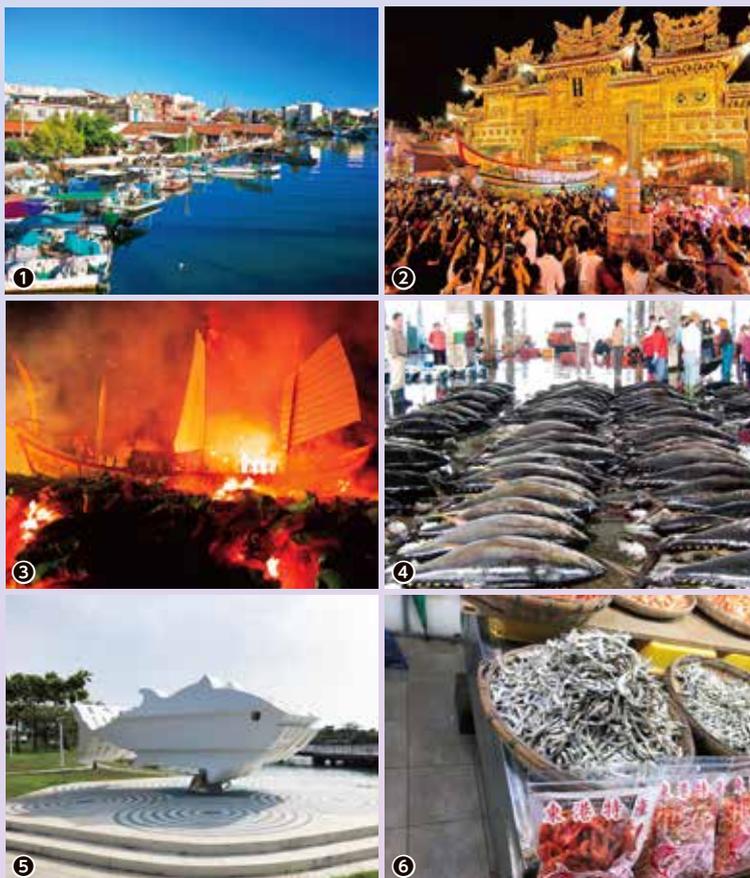
① ヤシとパイナップル畑 ② 美しい海とサンゴ礁 ③ 四重溪温泉 ④ 原住民族の知恵と文化を学ぶ ⑤ 台湾初の国立公園である墾丁国家公園 ⑥ 屏東県名産のアップルマンゴー

■東港鎮ってどんなところ？

東港鎮は、熊本空港から直行便が出ている高雄国際空港(11月現在運休中)がある高雄市から東南へ約32kmほどで、熊本空港から4時間ほどで訪れることが可能である意外と身近な自治体です。前頁で紹介した屏東県のほぼ中間に位置し、年間平均気温29.5度と熱帯温暖な気候です。

漁業が盛んで、クロマグロ、アブラソコムツの魚卵のからすみ風(「油魚子」)、サクラエビが「東港三宝」と称する名産品に挙げられているほか、カジキマグロなどがよく獲られるなど、遠洋漁業の基地として東港漁港の水揚量が数年連続で台湾2位になりました。

また、3年に一度開催される清代から続く東隆宮の「迎王平安祭典」は東港鎮などで特有の祭りです。この祭りの起源は、当時の開拓民の間で流行った疫病などの汚らわしいものを取り除き、人々が健康で平安に暮らせるように祈るためにおこなわれたもので、現在のコロナ禍と通じるものがあります。地元の人たちは迎王平安祭典を非常に重視しており、故郷を離れている人たちも漁師たちもみな、祭典の前には戻ってきて参加します。迎王平安祭典の時期に東港鎮を訪れる機会がありましたら、ぜひ濃厚な郷土文化を体験してみてください。



①東港鎮の港町風景 ②東港鎮を象徴する東隆宮 ③東隆宮で開催される「迎王平安祭典」の一番の見どころ、豪華な船が炎に包まれます ④⑤「東港三宝」のひとつクロマグロは東港鎮一番の名産物 ⑥豊かな海からはサクラエビなど多くの海産物が獲れます

■台湾からいただいた記念品を展示します

3頁で紹介している屏東県と東港鎮からいただいた記念品と国際交流促進覚書(MOU)の協定書を展示します。詳しくは、ホームページでお知らせします。

■場所 役場1階ロビー(エレベーター周辺)

■日時 12月中を予定、役場開庁日・時間



国際交流促進覚書(MOU)の協定書

■台湾文化を学ぶ講座を開講しています

日にち	時間(1時間~1時間半程度)	講座の内容
12月2日(金)	午後7時から	台湾と日本との関わり
12月20日(火)	午後2時から	台湾人ってこういう人たち

■場所

いずれも役場2階大会議室

■申込

不要。希望される講座にご出席ください。

■詳細などについて

最新の情報はホームページでご確認ください。



村HP

